

中華古文

No. 3

1959, 3

中國昆蟲研究會

もくじ

- 高限の麓にて 佐竹 新 1  
未記録への挑戦 田村 勝 4  
昆虫採集のもつ役割 篠崎 真七 9  
鱗翅雑記 柴尾 蝶太郎 10  
ウスイロコノマについて 坂口 邦彦 11  
標本贈與のこと 佐竹 新 12  
鹿児島下及び川内市薩摩郡に於ける  
記録予想蝶73種 田村 勝 13

あとがき

# 高隈の麓にて

佐竹 新

いま私の家の窓からは 1.18.2米の標高を誇る高隈御岳が朝に夕に多彩な光と影の姿態を見せてそびえているのが望まれる。垂水港で船を降りて新任地に向う私の眼を先に激しくとらえたのは この山々の峻厳な連なりであつたが、こうして「すみながし」へのベンをとつて私のつまなうらにひろがるもののは、昼尚暗くヤマビワの生茂清水岡の明るい樹間や、そして幾十とも知れ密生したアカガシの群れていた紫尾山間のまぶしい林道、密生したキマシジミ…等、川内在住2年有半の月に私はそれをまさしく戦後10年眠り続けていた私の蝶たちへの欲求をゆきかへの汗に触れた意緒に りんりと流れいた教師たちの熱い汗探求への彩ゆたかな自然界の風景である。それはまさしく自然界探求へくれた沃野であった。そこで私は、理科教育への意緒に ネット振る少年少女の幾多の眼の中に 自然界探求へらんらんたる輝きを見ることがでござった。私が去つた市でことし第二回の昆虫展が盛大に開幕したとの記事を新聞で読みながら、私は胸の中が熱くなるのを押えることができるなかつた。川内駅での別れの雨の朝、多くの見送りの人々から離れて 私を見送ってくれていた永田氏の淋しげな顔を思い浮べて 私はふと涙ぐみそうになつたりする。…その永田氏の後に数多い研究会の人々の温いまなざしがあり、そしてその周圍に、私に向けて降るように注がれた川内の人々の友情の海がひろがつてゐる。

鹿屋に着任してからまもなく 北中生の重田君から昆虫展の状況を伝える書信が届いた。「坂口君の作品はとても美しいよい作品でした。写真に写しておじさんになりました」とあり、鹿屋附近の採集地をたずねたあとで、「でも私は川内離任にあたり、角園氏らに懇請し快諾を得ること基地となることを約束しておきたい。そのためにも私は太陽半島の昆虫相をできるだけ広く知っておこうと考えてゐる。過日、鹿屋農高教諭の福田晴夫氏(鹿児島県の蝶、著者)をお

たゞねしたところ、台湾ツバメシジミの幼虫を飼育しておられ、食草シバハギを栽培しているのを見せてもらつたが、こうした篤学の士が鹿屋におられることが「一層私の心をはげましていてくれるようである。私の幼年時代からの蝶友伊藤満男君も鹿屋警察署にいらし、このほか2~3の熱心な研究家が在住している由で「ひとつ鹿屋でグループをつくりましょうか」というようなことで、福田氏との初会合はひじく楽しいものとなつた。伊藤君とはその後9月23日の新聞休日に御岳山麓にゆき、まことに20年ぶりに共にネットを振つたわけだが、山麓一帯で台湾ツバメを多數採集したほか、標高250米位のところではヤクシマルリシジミ含2、♀1を捕獲することができた。私はこの二とて「山頂にはいつもヤカルリがいるし、山間にはキリシマミドリも多い。このほかギンイチモンジセセリ、クロシジミの記録もある。」といつておられるから鹿屋からバスで30分そこまで山麓につけるこの山はとくに川内の会員たちにおすすめできるのではないかと思う。もつとも山頂への道程はかなりきびしく時間もかかる」ということではあるが……。私は仕事柄自分の管内以外にでることには許され難い立場にあり、再び川内周辺でネットを振ることは極度にむずかしいことで、その点では心淋しく思つてはいる。鹿屋に居ます多く私の敬慕してしてやまない京都の杉谷岩彦先生(註……スザニルシンジミなどの発見者。元京大講師 70歳。我国蝶学界の大先輩で現在病臥中)からお便りをいたがその中に「北鮮から逃れられた時のようには、その地の蝶に思いを残りのないようお暇の折には御在勤の地の蝶はお採りになつておかれますよう」との御懇意をお言葉がわあつた。まことに私が不可能ないように、川内で蝶を追うことは今やほとんど不可能に近い。私は今年(S.33)2月の雑誌「新昆虫」に少斗たぬ日呼びかけとして「君たちが再び採れなくなるがいい」と書いたが、思えば去る7月中旬、寺園川内署長(朝日新聞)とともに各社の人々と共に柴尾に登り、分部氏(朝日新聞)と合目附近でアカガシの大群生林を発見はじめた。はじめてシマドリを得た喜びに「ここをテラゾノ林と命名しよう」と語り合つたことども、今はもう再びと帰らぬ日のはるかな想い出となつてしまつた……。

川内を去らねばならなくなつた日の直前、吉見学校教育課長(市教委)が見えられ、引越荷の散乱した部屋で、私は身に余る市教委からの感謝状と記念品をいただいた。川内昆虫研究会の發展は、もとより私のみの努力の結晶であろうはずがない。額入りの感謝状を手にして、私は、むしろ私の怠慢から会への盡力の足りなかつたことが今さらのようににくやまれてならなかつた。

いま私の家の八喰の前にこの感謝状を掲げ、日毎私はわが心に革鞭打っているが、窓を開ければ高隈の山々が縁深くそびえたち。かつての日、太平橋の上から、はるかに見えた紫尾連山が、私は生きることの喜びをさやきかけたように、所をかえて大隅に住む今の私に、こんどは高隈の山々が同じ喜びを歌いかけてくれるかのようである。

私は川内の空へ向けてこう呼びかける。

——友よ、早くこい。そしてともに高隈の麓にネットを振ろう！ (1958. X. 1)

——筆者、毎日新聞鹿屋通信部主任、川内昆虫研究会顧問——

## 1958年の歩みをひきかえって

第2回北薩昆虫標本展覧会は、自9月5日至9月8日の4日間、毎日新聞社、教職員組合、等の御後援を得てわが川内昆虫研究会、北薩教育事務所、川内市教育委員会、共催で、川内市向田町富士屋デパートに於て開催。

出品者 小学校117名 中学校142名の多數に上り、盛会の中にその幕を閉じることができて、只、感激で胸は一ぱい。出品者の中には遠く出水郡からも歩を運んで戴いた方もあり感謝に堪えない。特に標本の中には紫尾のキリシマミドリが光彩をそえてくれたことは印象深く、忘れられない。尚、いろいろと御指導を賜った県同好会の竹村、肥後、の両先生にあらためて謝意を述べる次第です。鹿児島大学農学部長の瀧谷先生もわざわざ御いでいただきまして、誠に有難うございました。会員一同、心から感謝申し上げておりました。

毎月の採集会、予定通り進みました。御迷惑をおかけいたした各学校の先生方に厚く御礼を申し上げます。(角園)

<架空座談会>---

## 未記録への挑戦

田村 勝

○場所 ..... 市内 A 中学校生物教室

○日時 ..... 昭和 33 年 9 月 5 日

○出席者

司会者 ..... 久松先生

生徒 ..... 石垣蝶児

・林みどり, ・大村咲男

・杉谷ルリ子

久松

いよいよ“おみながし”も第 3 号を発刊の運びとなりました。今回から皆さんに色々の昆虫に関する話しあいをして頂く事になりました。皆さんは夫々研究会を中心とする人々ですから思つた事はどうしても發言して、大いに知識の交換をして下さる。今日のテーマは“未記録への挑戦”と言う積極的ななものですから今に採集して新分布地を開くぞと思つた蝶について発表して下さい。

石垣 ..... では先陣を承つてアゲハチョウ科のギフチョウとウスバシロチョウについて僕は採集できるかも知れないという期待を持つていいのですか。

（... 実に優雅なエレガントな蝶だな...）（笑聲）...

石垣 ..... 西方共九州では採集されていないのですが分布がら考へて見るとギフチョウは中国地方の低山地帯で採集されウスバシロチョウも四国に亜種が発生分布しておりますから一概に否定し去る事はできないと思うのです。

久松 ..... まあ、常識から考へると九州から...特に鹿児島県下での採集は不可能にも思われるのですが、実際の霧島や紫尾の条件から考へるとむしろ発生しないのが不思議のように思われる。更に大ていひの人がキリシマミドリやサカハナやイシガキ蝶をねらって 7 月下旬に行くのだがギフチョウは 3 月下旬から 5 月上旬頃ウスバシロチョウが 5 月から 6 月頃が採集期の爲採集されないとも考へらるるわけだ。

杉谷 ..... 私は何かの本でウスバシロチョウは氷河時代の遺物だと書いてあるのを見たのですがどんな事でしょうか。

石垣 ..... それはね、氷河時代のチョウの化石が発見されてそれがウスバシロチョウに似ていいのだ。

久松 ..... その通り。この蝶の仲間には展覧会に出品された

佐竹先生の標本にもあつたウスベキチヨウ(北海道大雪山)やヒメウスベシロチヨウ(北海道)があり氷河時代の遺物としては他にやはり北海道の大雪山特産のアサヒヒヨウモンがあるね。

林 想像以上に美しいのでびっくりしました。

久松 図鑑で見てもよくわかりませんが実物を見てビニールのように透明を表面に敷きつめた鱗粉が実際に上品でしたね。その近くに朝鮮で採集されたアカボシウスベシロチヨウとオオアカボシウスベシロチヨウがあつたのを覚えていますか。あれは北鮮の白頭山附近で採集される蝶ですね。全部属名は他のアゲハのようになります。

大村 僕はミヤマカラスアゲハが紫尾山や霧島山だけではなく川薩の低山地帯にも発生あるのではないかと思うんですが、

杉谷 私も大村さんと同じだわ、特に春型。

久松 杉谷さんは何故特別に春型だけにしたのですか?

杉谷 つまり、私が舞鶴にいた時の経験をしたのですが、近所の低山地帯で春は時々ミヤマカラスの春型が採集されたり不思議な事に夏に夏型が採集されたりするのです。勿論近郊の青葉山(720m)では夏型も春型もどちらかで平地では春型のみが採集されるのです。つまり日本での舞鶴では春型発生の5月には北側の斜面には雪が残っているしまだ花がたくさん咲いていないので春型だけは本能的に花蜜を求めて低山地帯まで移動しあがて早だけが高い発生地に戻って卵を産むという事が考えられます。

大村 つまり杉谷さんの意見が正しいとすれば5月頃紫尾山や霧島に発生したミヤマカラスの春型が花を求めて低い所まで移動してくるのであるまいかという意見だな。

杉谷 そうよ。

久松 杉谷さんの考え方には一応賛成できます。もし杉谷さんの意見が正しいならば大いに期待できるわけだ。大体問題になるアゲハ蝶は今の3種だがカバシタアゲハやシロオビアゲハ等の迷蝶がそれらがまだ知れないこと、川薩で沢山採集できるミカドアゲハは高知では天然記念物になっていることなど念頭においてよい事だな。

林 スジボソヤマキチヨウはどうでしようか?

石垣 鹿児島県下では未記録だよ。僕の採集経験では多數群飛するといふ蝶ではなく夫々の蝶が思い出したよう山道にポツンと出でてくるようだな。但しこれは京都での話で鹿児島県の場合もし採集されても紫尾が霧島で、そここそ稀に採集される位だと思うな。

久松 本州中部に多く北海道では未記録、四国で普通、九州で稀とされてるので割に有望な方ではあります。

杉谷 先生の先ほどのお話でシロオビアゲハ算の迷蝶と云うのがありましたか、その迷蝶について説明して欲しいと思います。

久松 迷蝶といふのは迷える蝶、迷って来た蝶つまり本来の分布地域から未記録の所に迷い出た蝶というわけだ。殆んどが外力の作用で無理に移動するもので迷蝶である限り発生は考えられないね。例えば台風の爲に吹き寄せられて琉球や大島や南方の島々の蝶が上陸した場合、或いは卵、幼虫、蛹、成虫、などが木材の間に附着したまま運びこまれ、幸いに羽化した瞬間が色々の場合があるわけだな。折角この迷蝶が早めの場合多く食草があり産卵した場合はもう迷蝶ではなく分布した事になるわけだ。メスアカムラサキは私が昭和21年に30頭程採集した事がありますしアオタテハモドキを東郷町で1合タテハモドキは楠元町で1頭国分寺町で2頭夫々完全なものを目撃しておりますので個体の新鮮さから考えると台風などで痛められたものではなく鹿児島市城山のメスアカムラサキ川内市内のタテハモドキ2種の発生と分布は確実なものと考えられるね。杉谷さんわかりましたか。

杉谷 はい。私もアオタテハモドキを開聞岳で採集しました。

大村 オオムラサキ……僕の名前みたいですね(笑声)この蝶は県下での記録があるようですが、食草がテンゲチヨウやゴマダラと同じエノキですので川内でも採集できるのではないかと思うのですがどんなんでしょうか?

久松 有望だとはいえますね

林 オオムラサキは国蝶だそうですね

石垣 日本の蝶の代表さ、今日佐竹さんの標本で坂口さんみ羽化させたものを見たんだけど成程と思つたを。

久松 佐竹さんのオオムラサキはいわゆる関東型で少し  
小さく感じた。関西型の場合にはもう少し大きく私の  
採集した舞鶴のものは今で開張が120mmほど150mm  
程あつたように記憶している。北に行く程大きくなる  
のが普通ですがオオムラサキの場合は反対ですね。

杉谷 私はやはり関西型を京都で採集したのですが飛んで  
る時はバサバサ音がする。飛び方大げつてすごく  
スケールが大きくてとても速い。

久松 スピードがあるのは当たり前でしょうね。同属のも  
のに台湾の補里紅から霧社の附近で採集されるイナズ  
マチヨウというのがあります。それこそハツとしてネ  
ットを持ち直した時はもう遙か彼方を飛んでいるそ  
うです。

石垣 昨年から話題になっている紫尾のオオイチモンジ  
らしい蝶について先生のお考えは如何ですか？

久松 そうですね。率直に言つて疑問です。何故なら  
オオイチモンジを直見誤つた事は万に一つもない筈です  
からね。確認できなかつた事とハラウ事はオオイチモンジ  
ではなかつたと言つた場合は云々ではない  
かと思ひます。大体オオイチモンジは誰でも手に入  
れたがる高山蝶中珍品で恐らくその華麗さは全蝶類  
中の白眉とされてゐる位ですから他の蝶と見誤つたも  
のと思ひます。若しオオイチモンジなら山梨長野富山が南限で然も  
000米から2000米の高地において南限以南の記録は全  
然無いのですからね。

久松 予定の時間が迫りよしたのでジャメやマダラやセ  
セリは割愛しますシジミチヨウ科に入ります。

林 先ずゼフィルスからですがゼフィルスとは何とい  
う意味が知つて居られますか？

久松 それは私から言ひます。微風、という程の意味  
です。戦前九大では昆虫雑誌ゼフィルスを発行してい  
ましたよ。

大村 紫尾霧島のキリシマミドリに霧島ヒサマツミド  
リ更に屋久島にはヤフシマミドリとあります。  
まだ開拓できぬよう恩われてならんですよ。

久松 珍島としてはヒサマツミドリが紫尾山にいるか、  
ダイセンシジミ、ウラクロシジミ、ウラキンシジミや  
フジミドリシジミが果して島下に発生するかどうか  
にががって研究会の皆さん努力にががつていると思

集とねア生ラけれ後の近トの海の類け依の県、川以良天ミ蝶会も  
郡だ。群ウガ知前葉、ミリ同州神にいた筑山、竹尾、奈はマも究し  
唯事前だくが彌もをはにマドる本もは家つ滋替が紫メ等シ水研申ビ  
い勝蝶ごだ一ケンガ合シミは。セ獲集もは那すとバハリはういは  
すなひす気にあキビエリマムガ乱拂しての耳鳥川ゲキ喜よ頬に  
ヨレダシの元常すラ藤をキシ散て輝ていてし県リ霧リアス。にる御ん  
い失ま美も当く産ウ。うにリにのをつ奇しと山あはルトヨタサガニ  
てを匈なが相し多はなよ後キ国う因従心滅錄歌がてラカイ人下す徒  
じ季中かだ尊らに生だる最、全恩して。ガ詫託和等しダミでにモ生  
信時月静かり急的先のが。がととし高はの山とマのけ上んりの  
とは8にやド珍地。もろ相す度もとさ稀にリ山路地キ知受以し執席  
る事ら実面ミ才局、ハクニテ程あ高下道中ド鳥馬産の高をりつは出  
きがはゆ才に。を独といてゐガ珍て珍ルミ鞍の多県ミ蘿よつて  
兎らもうニヤ如議細部コんつて廻中な界集シ都知な鳥シの巣から  
て年月のそオ何だら單ロでいはきのいのさマの界く取ジ保蝶にらあ  
は發ないいたミは思で全ロ通はえの島小虫採り高は。斯家らは席い  
すば多とかジ令不学ザコと識考當珍忘罷とキにです。ミ固れけの思した  
必れのミビシ場ら浅たがに認の招そを赤頭。山更地で一てこだ会とした  
はけ兩ジ茶リのがはし玉葉再んはこと從百す良山、彦若ルしては模談ハで  
生な。シはドミハ生集のいのさて水ニ。行で比大多いのとミ乱産たま  
先しす。シミミジを先採銀道ミ所とぞうね頭位山にて吾山物ジラには模談ハで  
意モキジシミハが程水にジは島はん十ろ吹県は草念シが株終勞  
ね注いラシるシかい頭を業シ值諸々とせ何あ伊取次に希記リす皆て苦  
う上恩ウカスキしな20上いリ画着人だよりもの鳥も外県然ドでのが  
御

同 有難うございました。

—(筆者、川内昆虫研究会員、現在川内市役所建設課勤務)。

訂正 すみながし Vol.2 NO2. P4 “Kさんを憶う。  
の皮で語りかおりましのう”訂正致します。

- P4. 9行回 ウラギンシジミ<sup>1</sup>は ウラキンシジミ<sup>1</sup>の誤り  
 P4. 13行回 昆虫界(加藤正英)は 昆虫界(加藤正世)の誤り  
 P6. 5行回 虫の数虫は 虫の数々の誤り

# 昆虫採集のもつ役割

篠崎 真七

生物学究極の目的は「生命現象」の把握でしょう。機能(生理)、形態、環境条件、習性、依存関係、さらに種族の榮榮などに廻して、生物体はどう構成組織されかど、うことを観察し、実験して理解することではないでないが。こういうことを考えていいると、昆虫がわかれ種類分布のようだと思つた場合、それはもつ役割ではない。その基礎になる大切なものが形態、あつた集を行つたがおかれます。もともと生物採集は、生物の形態で採集だけに重きがおかれ、やとすれば標本製作のため考のいとと思つてはいけません。命の軽視という非難が生ずるのにおきたいううにどう。今は生物採集の主目的を多角的点におきたいと思います。野外観察、飼育、栽培、標本製作。そこで採集を行ふ場合は次のことがらを常に頭において行いたいものです。

1. 生命を尊重し 愛育の精神を忘れないこと。
2. どんなことを研究したらよいか、どんな方法で研究しようかをはつきりと心に入れておく。
3. 環境としつかり結びつくような採集をする。例えば地図、植物など、即ち場所の研究をすることを中心とめておく。
4. 記録をとり、相互関係まで深めて行く。
5. 正しい採集の方法を用いること。  
a. 切手蒐集のようにならないように留意すること。
6. 創意工夫をして常に新鮮な思考が生きていくこと。
7. 上、考え方まことに述べましたが、これは教育という立場における私の考え方であります。

—— 筆者 川内昆虫研究会顧問

川内北中学校理科センター要員 —



会員を募る

会員不要

市内、小、中、高、校生、及び一般の同好の士よ ふるて御入会  
下さい。連絡は川内北中、南園へ。

# (隨 想) 鱗 翅 雜 記

# 紫尾蝶太郎

とに文句なしであつて、ここらに蝶屋の数が多い理由が存在しているようである。緑林で発見する時のヒオドシは燃えるように赤いし、ゴマダラの飛翔はまことにさわやかである。西朝鮮の草原にはホリオチヨウの大群がフワフワと舞いまじり、飛んでいるのを手でもとれるほど平和さであった。ナガサキアゲハの早やモンキアゲハの飛翔は息をのむような壯観だし、とくにイシガキチヨウの滑翔と羽ばたきは男性的で南国らしい情緒をたたえていい反面、葉や花に止る時は、いちばんやく身をかくし、その陽光の搖れる真夏の樹上をとぶキリシマミドリシジミなどは、まずは蝶のデラックスであり、ことばネットに入つてから金縁と銀とがきらめいて動くのは美の極致ともいえる。森に棲む美しい姫情-----とはまことにゼフィルスそのもののを言ひ得て妙といふべきだろう。セセリチヨウは一般におより好みられないようだが、アオバセセリが葉に静止している姿は全くが美しいし、クロセセリが白紋もあざやかに低樹林をさまようているのも捨てがたい味があると思つてゐる。はなやかな蝶たちの影が消えた山間の道ばたを時折止つたり飛んだりしてゐるキマダラセセリを見ていると、そこはかとない秋の訪れを感じて不思議な親しみをさへ抱いたりするのである。北の国の蝶には白雪がいかいたる冬を思わせる味わいがあり、南の国の蝶には燃えさかる太陽とにおうばかりの緑林に夢を通わせる情緒があるので、ここらでヘンをおこう。

## ○○○ ウスイロコノマについて

坂口 邦彦

川内市及び近郊に於ける本種の分布について

○高城村麓 クロコノマの多い所なので可能性十分な場所です。がどうしても採集されないままになつてしましましたが、1958年9月19日、低地で夏型を逃げし残念、然し頂上に向う途中の竹ヤブの横で秋型(左上羽破損)1合とました。

○花木部落 場所としては全くうそのようす所です。傍に數本の竹がありますのでそこが発生地と考えられます。これも1958年秋型1合の完全なものが会員の重田君(北中2年)によつて採集されました。

○柳山 ここは前にもお知らせしたように市内で

一番の発生地です。残念乍ら今のところ夏型のみで秋型の採集は聞かれません。

○ 神 壇 山 ここは僕が北中1年の時、夕方クモの巣にかがつているのを逃げしてやつたような記憶を持っています。

(北中3年生 川内昆虫研究会員)

### 標本贈與のこと

佐竹 新

われわれ会員たちも最近は雑誌等を通じて標本の交換をさかんにおこなうようになった事は喜ばしい事である。然し交換なしし贈与に当つては特に①こちらから送る標本はとくに完全品を選び、採集年月日をいし羽化年月日、採集地をいし飼育場所、及び和名は必ずつけること。②蝶の場合は破損を避けるため包装は固い紙箱を用い、三脚紙は二重をいし三重にし綿を上下につめること。要すれば"ナフタリンを入れることはよいか"この場合は微粒粉にせねばならぬ。③標本は極力手早合せて入れる。という点に気をつけたハものである。往々にして不良品を送つたり、先方から送つてもらつてもこちらからは送らぬというような例が他県で見られるとも聞いているが、いやしくも川内の会員はそのような事は絶対にないよう気をつけたい。又先方から品が届いたら時を移さず到着の報せを発し丁重に貴重な蝶標本の贈与を受けているが、それらは必ずれも一点の非のうちど"ころのない完全品"であり、しがも珍種といわれるものを快く送つてくださつているのには全く頭が下る。昆虫につながるものとして、こうした態度だけは先づくなるものだとつくづく思う。

尚、東京の藤岡知夫氏の御好意で岩手県産の珍蝶キョウセンアカシジミを幸各(飼育品)の贈与を受けた。機会があつたら來鹿され見ていただきたい。又これは贈与品では余りが、鹿屋市の伊藤満男君が北満の捕獲時代、採集、持ち帰つた蝶の中に、シロモンコムラサキ、カバイロゴマダラ、ビキイロミスジなどがある。日本では標本を見るよりもむつかしいもの全て"來鹿の機に見ておかれようおすすめする。

(筆者、毎日新聞鹿屋通信部主任 川内昆虫研究会顧問)

鹿児島県下及び川内市薩摩郡に於ける記録予想蝶 73種

田 村 勝

(註 I)

(註 II)

本州

四国

琉球

北海道

九州

台湾

X

※

○

◎

△

県下に於て記録されている蝶

記録は難かしいが不可能と断定できないもの

やや記録の可能性あるもの

大いに記録の可能性あるもの

発生分布共に確信あるもの

| 科            | 和名          | 分布     | 記録予想地   | 備考  |
|--------------|-------------|--------|---------|-----|
| アゲハチョウ科      | アゲハ         | 本      | 紫尾、霧島   | ※   |
| ハナウスバシロチョウ科  | ハナウスバシロ     | 北本、四   | 紫尾、霧島   | ○   |
| ヨコシマカラクワガタ科  | ヨコシマカラクワガタ  | 北本、四九  | 川薩低山地帯  | ◎   |
| シロヒロアゲハ科     | シロヒロアゲハ     | 奄美、大台  | 県下?     | (迷) |
| シロヒロシロチョウ科   | シロヒロシロ      | 本、四九   | 紫尾、霧島   | ◎   |
| メスジシロキカウ科    | メスジシロ       | 琉、台    | 県下?     | (迷) |
| ウラナミシロキカウ科   | ウラナミシロ      | 奄美、琉、台 | 県下?     | (迷) |
| タケシモンシロキカウ科  | タケシモンシロ     | 奄美、琉、台 | 県下?     | (迷) |
| リコウキエハ科      | リコウキエハ      | 九、琉、台  | 川薩?     | ○   |
| アサギマダラ科      | アサギマダラ      | 奄美、琉、台 | 県下?     | 珍品  |
| マダラカバマダラ科    | マダラカバ       | 奄美、琉、台 | 県下?     | (迷) |
| コモニアザギマダラ科   | コモニアザギ      | 琉、台    | 県下?     | (迷) |
| リコウキエハマダラ科   | リコウキエハ      | 奄美、琉、台 | 県下?     | (迷) |
| オオゴマダラ科      | オオゴマダラ      | 奄美、琉、台 | 県下?     | (迷) |
| ジャメキョウ科      | ジャメキョウ      | 北本、四九  | 川薩低山帶   | △   |
| ヒカゲキョウ科      | ヒカゲキョウ      | 全上     | 川薩低山小帶  | △   |
| クロヒカゲモドキ科    | クロヒカゲモドキ    | 全上     | 川薩低山帶   | ○   |
| ヒカゲモドキ科      | ヒカゲモドキ      | 全上     | 紫尾、霧島   | ◎   |
| キマダラモドキ科     | キマダラモドキ     | 全上     | 全       | ◎   |
| オムラサキ科       | オムラサキ       | 北本、四九  | 川薩低山帶   | ◎   |
| タクサキキョウ科     | タクサキキョウ     | 琉      | 県下?     | (迷) |
| テアカオシゴマダラ科   | テアカオシゴマダラ   | 琉、台    | 県下?     | (迷) |
| アサマ仔モンジ科     | アサマ仔モンジ     | 本州特産   | 紫尾、霧島   | ○   |
| ホシミスジ科       | ホシミスジ       | 本、四九   | 川薩平地低山帶 | ○   |
| サカハナキョウ科     | サカハナキョウ     | 北本、四九  | 川薩低山帶   | △   |
| オオミスジ科       | オオミスジ       | 北本、四   | 霧島、紫尾   | ○   |
| シータテハ科       | シータテハ       | 北本、四九  | 全       | ○   |
| ヒオドンキョウ科     | ヒオドンキョウ     | 全上     | 川薩全域    | △   |
| ウスイロヒコモノモドキ科 | ウスイロヒコモノモドキ | 中國山脈   | 紫尾、霧島   | ○   |
| アナタヘモドキ科     | アナタヘモドキ     | 奄美、琉、台 | 川薩全域    | △   |



あ と が き

発行がおくれてすみません。やっと「すみながし3号」をお手もとにお届けする段になりました。1958年8月顧問の佐竹新氏が鹿屋に転勤され、続いて10月初旬には副会長の永田幸吉氏が鹿児島市の田上小学校へ転勤と、この親であつたお二人を相ついで失い、運営上の支障も大きく、やつとの思いで歩いて来ました。

本号も1958年の夏発行する予定で仕事を進めて來たのですが、お二人の突然の転出で、加えて私が中学校の卒業学年担任という状態で皆様に申し訳ないと考え乍ら思うに任せず、進路指導の余暇を利用しながら鉛筆を握り、何とかここにまでこぎつけました。それだけに粗末なものには深みがあると思います。常に向上への一途をたどる本会の歩みであると信じます。玉稿を早く御送付下さった諸賢に対しては、まことに恐縮に存じますがお許し下さい。

新学年度への豊富は大きく、会の組織も再検討の上積極的に歩を進めたいと考えます。

いよいよシーズンとなりました。

会員皆様の御健斗を祈ります。

昭和34年3月25日

編集発行者 田園榮男

発行所 川内昆虫研究会

川内市宮内町、川内北中学校内